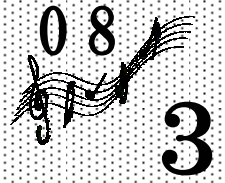




♪しりつすぎかとしょかん♪

としょかんだより



おはなしの会

まいしゅう土ようび ごぜん11時から えほんコーナーにて

()内は担当するボランティアグループの名前です

- 1日 えほんのよみがたりなど (語りの会りんどう)
- 9日 えほんのよみきかせなど (キラキラぱーく)
- 15日 えほんのよみきかせなど (さざんかの会)
- 22日 えほんのよみきかせなど (あかりの会)
- 29日 えほんのよみきかせなど (林伸江さん)

おもひにきてね!



3月

あら で あ かなどう 新たな出会いと感動を

この1年、みなさんはどんな本と出会いましたか?きっと素晴らしい本との出会いがたくさんあったことでしょう。そしてこれからも、新しい本との出会いがみなさんを待っています。4月からの新しい生活の中でも、みなさんの本の世界がますます広がっていくことをねがい、長田弘さんの「世界は一冊の本」という詩をおくります。

「世界は一冊の本」

長田 弘

本を読もう。
もっと本を読もう。
もっともっと本を読もう。

書かれた文字だけが本ではない。
日の光、星の瞬き、鳥の声、
川の音だつて、本なのだ

ブナの林の静けさも、
ハナミズキの白い花々も、
おおきな孤独なケヤキの木も、本だ。

本でないものはない。
世界というのは開かれた本で、
その本は見えない言葉で書かれている。

ウルチム、メッシナ、トンブクトウ、
地図のつえの一点でしかない
遙かな国々の遙かな街々も、本だ。

そこに住む人びとの本が、街だ。
自由な雑踏が、本だ。
夜の窓の明かりの一つ一つが、本だ。

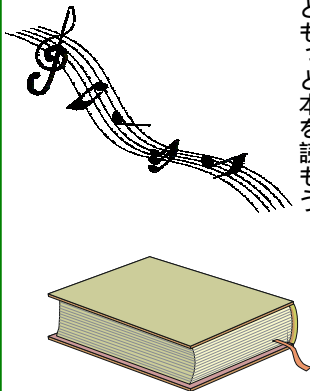
シカゴの先物市場の数字も、本だ。
ネフド砂漠の砂あらしも、本だ。
マヤの雨の神の閉じた二つの眼も、本だ。

人生という本を、人は、胸に抱いている。
一個の人間は一冊の本なのだ。
記憶をなくした老人の表情も、本だ。

草原、雲、そして風。
黙って死んでゆくガセルもヌーも、本だ。
権威をもたない尊厳が、すべてだ。

200億光年のなかの小さな星。
どんなことでもない。生きるとは、
考えることができるということだ。

本を読もう。
もっと本を読もう。
もっともっと本を読もう。



あたらしい本のしょうかい 3がつ

えほん

『らいおんのがお』

「おい、みんな、ぼくとあそぼう、あそばないとたべちゃうぞ」らいおんのがおはいじめっこ、だれもあそんでくれません。バナナをひろったがおは、バナナをみんなにあげて、なかよくなるうとするのですが…。

(ただひろし絵 たらむらてるお文 ブックガ)

『いちくん にいくん さんちゃん』

うみべにあるふねのかたちをしたすてきな家。「いちくん」「にいくん」「さんくん」というねこのきょうだいがすんでいました。天気の良い日に、3びきはつりざおをかついで、海へつりに出かけたのですが…。

(やまわきゆりこ絵 なかがわりえこ文 ブックガ)

じどう

おはなし

衣世梨の魔法帳 たんじょう日のびっくりプレゼント

10歳になる衣世梨は、小さいころのことを思い出し、かよっていたすみれようちえんまでいってみることにした。すると、なぜかようちえん時代の衣世梨と出会ってしまい…。

(那須正幹作 やまにし えい絵 ポプラ社)

おはなし

かんたんせんせいとライオン

ライオンのバムのねがいは、かわいらしいハムスターになること。そんなバムに、かんたんせんせいは3つの方法をおしえてくれます。さあて、どうやってへんしんするのか？

(斉藤洋作 おおもりひろこ絵 講談社)

新しいシリーズ・ぶんこのしょうかい

新シェーラひめのぼうけんシリーズ

(村山早紀作 佐竹美保絵 童心社)

ふたごのお姫様の冒険を描いたシリーズの新刊本です。第6弾の「風の恋うた」からシリーズ最終巻の「天と地の物語」まで全5冊です。

1冊ご紹介! 「風の恋うた」(第6弾)

魔物におそわれて雪原の村に下りたシェーラ姫たち。翼を持つ「鳥の民」のほろびゆく運命を知った一行は…。

シリーズ

きみも名探偵シリーズ

(日本児童文学者協会編 偕成社)

不思議な出来事がいっぱいのお話が7編収録されているシリーズが5冊入ります。あなたも、いっしょに事件の謎に挑戦してください!

1冊ご紹介! 「心はいつも名探偵」

教室の机に書かれた「714」という数字。その翌日には「11=114」という落書きがふえていた。どうして? 誰が、なんのために落書きを…?

ぶんこ

文学少女シリーズ

(野村美月著 竹岡美穂絵 エンターブレイン)

物語を「食べちゃうぐらい」深く愛している“文学少女”天野遠子と、平穏と平凡を愛する「今は」ただの男子高校生、井上心葉が主な登場人物。数々の悲しく苦い物語を軸にお話は進んでいきます。実はこの小説、実在の文学作品が題材となっています。その作品をなぞるかのようには物語が展開したり、登場人物がその小説に強い影響を受けたりしています。この小説を読んだあとは、ぜひ題材となった文学作品もいっしょに読んでみてください。

予約もできます!
カウンターへどうぞ

